

第69回委員会での 川上ダムに関する 主な意見

1

○アセットマネジメント (既設ダムの長寿命化)について

- 「川上ダムなし」の代替案は検討に値する。流域全体のダムでライフサイクルコストをマネジメントするのはよい。
- 雨が少ない年に(ダムの低水位時に)、通常管理範囲内で土砂を浚渫できるのではないか。
- いきなりダムで考えるのではなく、堆砂を促す上流域の構造物や流速を落として堆砂を促進する方法等も検討する必要がある。
- 堤高が9m高くなる。経済的なコストだけでなく、河川環境へのマイナスコスト(負荷)についても考える必要がある。

等 2

○利水について

- 河川管理者は「利水安全度が低下するから代替案は無理だ」としているが、大阪市には余裕がある。
- 「青蓮寺用水土地改良区の幹線パイプラインを利用した導水」案は、誰も損をしない良い提案だ。
- 利水に関する議論は「河川管理者が水需要管理をどこまでやるのか」に収斂する。
- 利水に関する議論は「河川管理者が水需要管理をどこまでやるのか」に収斂する。
- 流域委員会として、大阪市と伊賀市からお話を伺ってはどうか。等

3

○環境について

- 二次元モデルで水質予測を行ったことは評価できるが、まだまだ信頼性のある予測になっていない。
- 「水質保全対策の結果、クロロフィルは7~8 μ g/Lに落ち着き、大きな影響はない」と結論づけているが、自然河川としては妥当な値ではない。
- 環境を大前提にして、いかにして治水と利水に我慢してもらうかを考えるというプロセスになっていない。
- 生態系ポテンシャルの高い地域は次世代のために残しておくべきだ。

等

4